

分野（１）

小児・思春期を対象とした環境保健事業の事業実施効果の適切な把握及び
事業内容の改善方法に関する調査研究

⑤ぜん息患者の自立を支援する長期管理に関する調査研究

研究課題名：気道炎症評価にもとづく小児ぜん息患者の効果的な長期管理法と
自己管理支援の確立に関する調査研究

調査研究代表者氏名：藤澤隆夫

評価コメント

○呼気NOを指標として、EIAとの関係、アドヒアランスとの関係、ICS中止後の予後との関係を明らかにしており、有用性は高い。特にICSの中止の基準やその後の再燃を予防するための指標を確立できれば、その意義は大きいので、さらに症例数を多くしてエビデンスを強固にする必要がある。ただし、この場合も呼気NO濃度の測定条件（室内、室外、大気中NO濃度の影響等）、日本人児童の正常範囲や値を左右する他の因子等について、もう少し基礎的データを収集する必要がある。

○呼気NO値の測定により、気道炎症をモニタリングし、患者の自己管理等に有用であることが示唆できたことを評価する。

○呼気NOの測定が本年度の本機構の研究にしばしば喘息の自己管理能力を高める手段として用いられているが、その標準化に関してはまだ多くの問題があることは本課題の研究者である藤澤も指摘している。日本人における標準値や測定条件等を含めて、次年度の研究課題として取り組もうとしているが、これは早急に解決しなければならない極めて重要な課題である。

○FeNO（小児）の正常値を設定できるとよいと思われる。肺の発育低下の可能性を肺機能の低下の背景として考えて検索していく必要がある。

○呼気NOが喘息の経過を観察するのに客観的指標として、どの程度有用であるのか、また、他の指標に比較して優れているのはどういう点か（他の指標との比較を行うことも大切である）、また、どのような場合に指標として使用できるのか、十分な症例数を集めて信頼性の高いエビデンスを築くことが望ましい。

○吸入ステロイドの中止安全基準の作成は有用で重要なテーマである。呼気NOだけでなく、他の指標も十分に利用して、信頼性の高い中止基準を作成できれば社会的貢献は大きい。

○ステロイドの吸入療法は小児でも喘息の長期管理の主流を占めているが、その中止の判断、中止の方法等の研究とその確立は有意義である。ただ、多くの国外の報告では中止そのものに対して悲観的な見解が殆どである。